

諏訪小だより

令和5年1月31日
2月号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

学習発表会に向けて

校長 齋藤幸之介

1月20日過ぎの数日間は、あまりの寒さに驚きました。それまでが比較的暖かかっただけに、その厳しさは一層身に沁みました。しかし、一方で子供たちは日々生活を送っています。このことを有難く思うとともに、保護者の皆様の御協力に深く感謝をいたします。

さて、来る2月18日には学習発表会の開催を予定しています。

子供たちは様々な準備を行っていますが、準備の仕方も以前とは少しずつ異なっている、と捉えています。かつては、行事があると、それに合った内容を選んで取り組む傾向がありました。しかし、今は前提が変わった、とも言えましょう。

学習の「相互の関連」を図る

例えば、従来は、国語科、算数科といった教科や道徳、特別活動などがそれぞれもつねらいを、各々の決められた時間の中で達成することを目指してきました。しかし、今では、「相互の関連を図る」、例えば、国語科で学んだ調べてまとめる活動を社会科や理科で生かす、といった「乗り入れ」を行うことも視野に入れられています。

特に、学習発表会はこの特徴が顕著であると言えます。この行事は、特別活動の「文化的行事」とされ、「自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しむ」ことをねらっていますが、これは「平素の学習活動の成果を発表する」ことを通して、とされます。私共は、日々大切にしてきたことを発表できるようにしたいと思っています。

探究のプロセスを生かす

文化的行事と大いに関連した学習の一つに「総合的な学習の時間」を挙げることができます。この目標には「よりよく課題を解決する、とあります。興味があることや社会における今日の課題を自分なりの方法で解決しようとする取り組みがこの学習の特色でもあります。この過程を「探究のプロセス」とも言います。

このことは、実は各教科等の学習と相通じることがあります。本校の学校経営方針

にも「問題解決活動」とありますが、実は、場面で行われている教育活動の多くは、この「探究のプロセスを踏んでいる」とも言えます。例えば、国語科で、物語文を単に読み取るのではなく、「工夫して音読をしよう」と課題設定した場合、場面ごとに読み深めながら音読をする際の工夫を見出しながらより豊かに表現しようとする、といった子供たちの姿が想像できます。また、単に音読するにとどまらず、効果音を入れたり歌を組み込んだりすることもできます。歌と言えばまさに音楽科の内容です。そうすると、国語科→音楽科→国語科・・・という探究のプロセスがつながり、そのまとめとして発表が位置付くことになります。が

子供たち同士、また子供たちと教員が対話をしながら発表に向けて活動していく、今はこのような段階であります。

日々の探究活動が

大いに生かされることを願って

校長室の真上が音楽室ですから、子供たちの器楽演奏がよく聞こえてきます。最初は個人やパートごとの練習ですから、異なるタイミングで聞こえてきます。しかし、これらを合わせる段階になると、音の重なり的美しさや迫力が伝わってきます。これも探究のプロセスを踏まえた活動になります。素敵な音色に引き付けられ、気付いてみるとつい音楽室に、ということもあります。意欲的に探究する姿は授業時間だけでなく休み時間にも見られます。

また、学年全体が集まって話し合いながら、全体の構成とそれぞれの役割を明らかにし、そして仲間同士で思いや願いを十分に伝えるべく進んで取り組む姿も見られます。大いに期待がもてます。

収束傾向にあるとはいえ、予断の許さないコロナ禍での学習発表会となって御不便をおかけいたしますが、御理解をいただき当日お越しくだされれば幸いです。

<参考>

小学校学習指導要領解説「総則編」「特別活動編」「総合的な学習の時間編」（いずれも2018年 文部科学省）